

医療場面への会話分析的アプローチの変遷

関西外国語大学
川島理恵

1. 目的

医療は、本質的に相互行為を通じて成立するものである。特に最近の医療現場では「患者中心主義」が謳われ、消費者主義とも相まって医療者と患者の「対等な」関係を重視するようになっていく (Haug and Lavin 1983)。どのようにしてその「対等な」関係を結ぶことができるかという問題は、その関わりの現状を明らかにすることから始めなければ、解明できない。本発表では、医療分野における会話分析研究の蓄積を、特に治療の話し合いの部分に関して広く知られるいくつかの古典的な研究と共に最近の研究の広がりについて重点的に紹介したい。

2. 治療の話し合い・交渉について

まず古典的な研究としては、スタイバース Stivers (2006) の小児科診療における治療方針の決定に関する研究を紹介したい。スタイバースは、患者の親が治療方針の話し合いの際に、時折抵抗 (resistance) をしめすことに着目した。治療提案連鎖において、患者や家族からの間接的な抵抗は沈黙、応答の保留や最小限の相槌などによって示される。その場合、医師は患者もしくは家族の了承を得るまで、提案という行為を繰り返す。つまり受け手の承諾が提案を終了するための重要なピースになっている。治療方針の話し合いは、最も患者の治療への参加が求められる。

3. 最近の研究動向

最近の研究では、こうした提案連鎖におけるパターンは、小児科医療のみならずプライマリ・ケアのデータや慢性疾患の診療においても顕著に現れることが報告されている (Koenig 2011)。日本国内でも、女性医療、救急医療や精神科診療における提案の構造が明らかになりつつある (Kushida and Yamakawa 2015; 川島 2013)。さらに治療方針を決定するというプロセスについては、その場の方針を決める権威 deontic authority という側面からも研究が進んでいる。特に治療方針の決定の際に医師だけでなく患者もその deontic authority を発揮する発揮するという議論がステバノビク Stevanovic らによって展開されている (Stevanovic and Peräkylä 2012; Lindström and Weatherall 2015; Landmark et al. 2015)。

参考文献：

- Haug, M. and Lavin, B., 1983, *Consumerism in medicine: Challenging physician authority*, Beverly Hills, Calif.: Sage.
- Koenig, C. J., 2011, "Patient resistance as agency in treatment decisions," *Social Science and Medicine*, 72:1105-14.
- Kushida, S. and Yamakawa, Y., 2015, "Fitting proposals to their sequential environment: a comparison of turn designs for proposing treatment in ongoing outpatient psychiatric consultations in Japan," *Sociology of Health and Illness*, 37:522-44.
- Landmark, A. M. D., Gulbrandsen, P. and Svennevig, J., 2015, "Whose decision? Negotiating epistemic and deontic rights in medical treatment decisions," *Journal of Pragmatics*, 78:54-69.
- Lindström, A. and Weatherall, A., 2015, "Orientations to epistemics and deontics in treatment discussions," *Journal of Pragmatics*, 78:39-53.
- Stevanovic, M. and Peräkylä, A., 2012, "Deontic Authority in Interaction: The Right to Announce, Propose, and Decide," *Research on Language & Social Interaction*, 45(3):297-321.
- Stivers, T., 2006. "Treatment Decisions: Negotiations between doctors and patients in acute care encounters," J. Heritage and D. Maynard eds., *Communication in Medical Care: Interactions between Primary Care Physicians and Patients*. Cambridge: Cambridge University Press.279-312.
- 川島 理恵, 2013, 「救急医療における意思決定過程の会話分析:インフォームド・コンセント運用の1例として」『社会学評論』64(4):663-78.